

2 消火栓格納箱及び消火栓の取扱い

消火栓による初期消火活動は、最低3人(注水者・伝達者・消火栓開閉者)で行い、単独操作は絶対に行わないでください。操作は慌てずにゆっくりと確実にいき、事故防止に努めてください。

① ホース格納箱（消火栓ボックス）



② ボックス内にある道具



③ 地下式消火栓

○ 蓋の種類



『』は、消火栓ハンドルの差込口

○ 消火栓内部



※ バルブは放水準備が整うまで開けないように注意してください。

④ 消火栓の使用方法

《ふたの開け方》

消火栓ハンドルの先端(先が平らな方)を、蓋の消火栓ハンドル差込口へ入れ、てこの原理で蓋を開放します。

蓋が固く閉まっているものは、挟まっている砂を除去し、ハンドルで叩き衝撃を加えると開き易くなります。

蓋は非常に重いので、腰や足元に注意しながら開けてください。



《ホースの展張要領》

二重巻きホースのメス金具近くを押さえ、オス金具を確実に保持し、左手はホースに添えて展張方向を定め、前方へ転がして延ばしてください。



《消火栓への結合》

ホースのメス金具を消火栓の吐水口に結合し、ハカマ部分を両手で引いて結合を確認します。



《ホースの結合》

2本目を使用する場合は、1本目と同じ要領で展張し、オス金具とメス金具をおしつけて結合した後、ハカマ部分を引っ張って結合を確認します。



《筒先にホースを結合》

ホースを延ばしきったら、放水者の筒先にあるメス金具にホースのオス金具をおしつけて結合し、引っ張って結合を確認します。



《基本注水姿勢》

取手と筒先上部をしっかり握り、火元に向けて放水します。ひざをやや曲げると同時に体重を前方に置き、前傾姿勢をとります。



《伝達要領》

注水者が注水体制をとった後、伝達者に放水開始の指示をして消火栓開栓者に伝達を依頼します。なお、放水を中止する場合も同様です。



《消火栓の操作》

補助者から放水開始の指示を受けたら操作を開始します。バルブの開放はゆっくりと状況を確認しながら行います。急激な開放は負傷につながるおそれがありますので注意してください。

※ 訓練ではバルブ開放は絶対に行わないようにしてください。

《筒先の操作》

注水者は、筒先に可変ノズルがついている場合は、ノズルを開放して棒状や噴霧状の調整をして消火してください。



⑤ 定期的な確認・点検

一般的に、ホース格納箱の中には、ホース、消火栓開閉ハンドル、管そうが入っていますが、一つでも欠けると消火活動を行うことができません。

全国的に、ホース格納箱に収納されている器具が盗難される事案が発生しています。

各自治会や自主防災組織で管理するホース格納箱の定期的な確認・点検をお願いします。

《点検要領》

- ・ 格納箱本体に大きな破損や錆びがないか確認します。
- ・ 扉の変形等により開閉に支障がないか確認します。
- ・ 収納資機材（ホース、管そう）の結合部分（金具）が正常に動くか、結合させて確認します。
- ・ ホース内張のゴムやホース全体に明らかな変形等がないか確認します。

3 救助救出方法

① バールを使った救出方法

バールは、てこの力を使って重い物を動かすことが可能で、下図のように地震等の災害時に、建物や車などに閉じ込められた人を安全な場所に救出するため、がれきを持ち上げたり、ドアをこじ開けたり、窓を破壊するのに有効です。

